

## 1 調査の実施について

全国の児童自立支援施設に対し、中卒児への支援状況等について調査を実施（R4.2月）

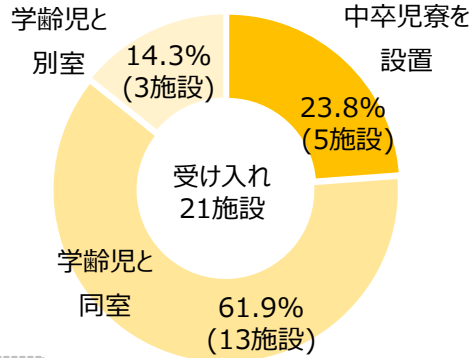
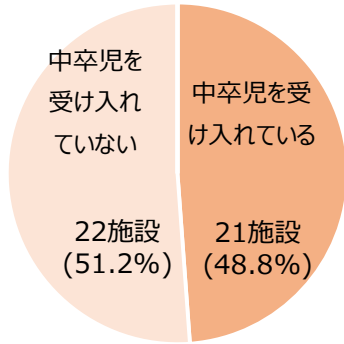
調査票配布数	56施設
回答数	43施設
回収率	76.8%

調査項目
1 寮舎の状況（箇所数・定員等）
2 中卒児への支援状況
3 施設の職員体制 等

## 2 調査結果について（R4.2月時点）

### （1）中卒児の受け入れについて

43施設のうち、中卒児を受け入れている施設は21施設あり、そのうち約6割の施設が学齢児と同室において支援をしている。また、中卒児寮を設置している施設は5施設であった。



- ①学齢児寮で支援していた子ども、②高校等へ進学した子ども、  
③進学、就職をしていない子ども等、施設により受け入れ対象あり

### （2）中卒児寮における支援の状況について

運営方法	定員	職員配置 ①児童自立支援専門員 ②児童生活支援員 ③上記以外 ④宿直等職員(兼務含む)	専門職員の配置 (正規・非正規・兼務含む)	主な支援内容	中卒児の延べ人数 (R3.4～R4.2)
直営敷地内に設置	男子12人	①3人・③5人	家庭支援専門相談員:2人 心理療法担当職員:1人 個別対応職員:1人 保健師:1人	・在寮児童に対する作業、学習等の支援 ・通信教育のレポート作成への支援や、定期的に学校訪問を行い情報共有を実施 ・アルバイトや就労への支援 ・家庭支援専門職員による家庭との連絡調整	7人
	男子12人	①1人・②1人	心理療法担当職員:2人 看護師:1人	・在寮児童は、高等部において学習支援 ・高校への通学支援 ・職場体験実習やアルバイト、求職活動の支援	1人
	男子6人	①3人・②1人 ④4人	家庭支援専門相談員:1人 心理療法担当職員:1人 個別対応職員:1人 自立支援担当職員:2人 看護師:2人	・寮職員と自立支援担当職員が寮生活や高校に関する支援を実施 ・看護師による日々の健康チェックや服薬管理、病院受診の同行支援	2人
	男子10人	①1人・②1人	家庭支援専門相談員:1人 心理療法担当職員:1人 保健師:1人	・高校への通学支援 ・自立部屋（風呂・トイレ・台所付）での生活訓練の実施 ・外出訓練の実施	5人
	男子8人 女子12人	男子①1人・②6人 女子①2人・②12人 男女③19人	家庭支援専門相談員:1人 心理療法担当職員:7人 個別対応職員:1人 職業指導員:1人 看護師:1人	・高校、大学等受験、高校卒業程度認定試験、ワード・エクセル検定への支援 ・通信制高校の単位取得の支援、全日制高校の定期テストへの支援（外部委託） ・職場実習、アルバイト、就活等の支援	20人

- ・家庭支援専門相談員：早期家庭復帰のための保護者等に対する相談援助業務、退所後の児童に対する継続的な相談援助業務等  
・心理療法担当職員：対象児童等に対する心理療法・生活場面面接等  
・個別対応職員：被虐待児童等特に個別の対応が必要とされる児童への個別面接、生活場面での1対1の対応等  
・職業指導員：児童の職業選択のための相談・助言、実習・講習等による職業指導等  
・自立支援担当職員：自立支援計画作成への助言及び進行管理、学習・進学支援、職業指導、就労支援等に関する社会資源との連携等

(3) 学齢児寮（学齢児と別室）における支援の状況について

	寮舎数(定員)	職員配置 ①児童自立支援専門員 ②児童生活支援員 ③上記以外 ④宿直等職員	専門職員の配置 (正規・非正規・兼務含む)	主な支援内容	中卒児の 延べ人数 (R3.4~ R4.2)
①	男子:1(30人) 女子:1(20人)	男子 ①4人・②1人・④4人 女子 ①4人・②1人・④4人	家庭支援専門相談員:1人 心理療法担当職員:1人 個別対応職員:1人	・通学支援、学校行事等への職員の参加 (通常、中卒児の受入れなし)	1人
②	男子:2 (15人×2) 女子:1(15人)	男子 ①10人・②1人・④2人 女子 ①5人・②2人・④1人	看護師:1人	・施設内において、教養学習、作業学習 (農作業・木工・家庭科等)、体験学習 (ハローワーク訪問、職場実習等)の実施	1人
③	男子:1(12人) 女子:1 (6~8人)	男子 ①6人・②1人・④8人 女子 ①4人・②1人・③1人 ④5人	家庭支援専門相談員:2人 心理療法担当職員:2人	・施設内学校の一室を利用して、午前中は 外部講師による学習支援、午後は作業指 導の実施	1人

(4) 学齢児寮（学齢児と同室）における支援の状況について

43施設のうち、13施設が学齢児と同室で中卒児への支援を行っている。

主な支援内容	専門職員の配置施設数(13施設中) (正規・非正規・兼務含む)
<b>【学習支援】</b> ・中卒児学級を設置し、次年度の高校受験に向けた外部講師による学科指導(数学・英語等)の実施 ・漢字検定等の学習支援 ※中3クラスで授業を受ける体制をとっている施設もある <b>【就労支援】</b> ・地域の事業所での就労体験、施設内での農作業、アルバイトの実施 <b>【自立支援】</b> ・バイクの免許取得、資格取得のための学習、調理実習等の支援 <b>【専門職員の関わり】</b> ・職業指導員による職業体験の支援 ・保健師、看護師による、校内健診の対応や病院受診の同行支援	家庭支援専門相談員:9施設 心理療法担当職員:11施設 個別対応職員:6施設 職業指導員:5施設 自立支援担当職員:1施設 保健師:2施設 看護師:2施設

(5) 中卒児支援のメリットと留意点等

○**メリット**

【中卒児寮・学齢児寮共通】

- ・中学卒業までに支援が完結しなかった場合でも、引き続き生活指導・職業指導を行い自立する力を養うことができる
- ・学習支援により学力が向上すると、進学への希望を持てるようになる
- ・就労を目指す子どもについては、手厚く支援を行いながら進路の決定ができる
- ・生活環境が大きく変化しないため、スムーズに新生活へつなげることができる
- ・退園した子どもについて、再度の受け皿となっている

○**留意点等**

【中卒児寮・学齢児寮共通】

- ・学校や職場との密な情報共有や、連携した対応が行える職員体制が必要
- ・子どもの不利益にならないよう、職場等と情報共有を行う際は配慮が必要
- ・家庭から通う同級生と比較し、施設入所に対する反発や通学に対する意欲低下を招く傾向があるため、退所までの明確な見通しや動機づけが必要

【学齢児寮】

- ・小学生から中卒児が同一寮で生活する場合や、高校受験をする子どもとそうでない子どもがいる場合、生活空間を分けることや日課の調整、個室の確保等が必要
- ・学校への送迎等を行う職員体制が必要
- ・施設外での過ごし方や、携帯電話の使用等にあたり子どもの理解が必要

○**対応の工夫**

- ・自立までの各段階において、専門職員と連携して子どもと面接を行い、意思確認や評価を実施
- ・地域生活にスムーズに移行できるよう、早期から関係機関と具体的な支援内容や役割について協議を実施